

令和元年度長工野球部OB会総会にあたって

名古屋支部 堀川隆夫

令和元年を迎え、新たな気持ちで長工野球部を支え続けるOB会総開催にあたり、簡単ですがお祝い（苦言）を申し上げます。

ホームページで長工野球部の戦績を見るたびに、はがゆい思いにかられ、後輩はいつもどんな気持ちで練習しているのか、何を目的に高校生活を過ごしているのか？心の内を聞きたい衝動にかられます。我々の時代は練習道具もままならない状況の中でもチーム一丸となって練習に励み、目標を高く持ち、甲子園を目指し、もう一歩のところまで出場できなかった悔しさがありました。公立高校のハンデはありますが、それを乗り越える精神力を養って欲しいものです。当時の練習も授業が終わり、暗くなるまで球を追い、休みもなく必死に頑張り、上手くなりたいの一念でつらいと思いませんでした。

昨年秋に名古屋地区で6人の球友が集まり50数年ぶりに再会し昔を懐かしみ、良く頑張ったなあと話が弾みました。頑張っている程度の結果を残すと球友に再会したいとの気持ちが芽生えます。1回戦、2回戦での敗退が続くとOB会にも入会したくないとの気持ちになってくるのでしょ

う。昨今の卒業生の入会の実績が少ない事はその事を表しているでしょう。OB会の支援を熱意をもって続けるためには、我々古参OBのみが叱咤激励するのではなく新規OBも相まって、総力をあげて応援する事が必要です。

今、総会で議論すべきは何か？問うて欲しいと思います。野球やって良かったと思えるために！
